

2018年

新入社員 意識調査

2018年7月



ホームページ・アドレス
<http://www.a-bank.jp/>

はじめに

今年も多くの新入社員が期待と不安を胸に、社会人としての第一歩を踏み出しました。

新入社員は地域社会の将来を担う大切な財産です。晴れて社会の一員となった方々はどのような意識を持って日常の仕事に取り組んでいるのでしょうか。

本調査は、1977（昭和 52）年から新入社員の意識を調査し、その結果をまとめて公表しているものです。

このところ青森県の雇用環境は働く側からみれば改善傾向にありますが、企業側からみると人手不足という大きな課題も抱えております。今年の新入社員が青森県の貴重な人材として活躍していくに当たり、これからの社内教育、研修等の参考にさせていただければ幸いです。

最後になりますが、本調査に際しましてご協力いただきました新入社員の方々に厚くお礼申し上げます。

調査要領

- 方 法 アンケート方式
- 対 象 者 県内事業所 2018 年度新入社員 241 名
- 実施時期 2018 年 4 月
- 回答者内訳

区 分	男性	女性	合計
高校・高専卒	62	46	108
専門学校・短大卒	27	20	47
大学・大学院卒	55	31	86
合 計	144	97	241

※本調査は、青森銀行のホームページ(<http://www.a-bank.jp/>)にて公開しております。

.....
【本件に関する照会先】
.....
一般財団法人 青森地域社会研究所
.....
担 当： 野 里
.....
TEL 017-777-1511
.....

目 次

調査結果の概要	1
1. 就職にあたって	
(1) 会社を選ぶ際の重視項目	3
(2) 県内就職の理由	4
2. 社会人として	
(1) 就職し、不安に感じること.....	5
(2) 社会人として大切なもの	6
(3) 仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術	7
(4) 昇給・昇格の基準について	8
(5) 「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか	9
(6) 「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを目指すか...	10
3. 上司について	
(1) 上司に求めるもの	11
(2) 理想の上司を有名人にたとえると	12
4. 自分の将来について	
(1) 今の会社でいつまで働きたいか	13
(2) どのくらいまで出世したいか	14
(3) 将来結婚した場合の共働きについて.....	15
5. 自分自身のことについて	
(1) 初月給の使いみち	16
(2) 普段、情報源として何を利用するか	17
(3) 自分をPRする言葉	18
6. 社会人となり、改めて感じること（自由回答）	19

調査結果の概要

今年の新入社員は就職に際し、仕事と自分との適性を重視する傾向が依然として強い。一方、会社の業績については関心が低くなっている。この動きはバブル崩壊後からみられ、リーマンショック以降はさらにその傾向が強まり、現在に至っている。また、今回調査では福利厚生面など労働条件・環境にも関心が高まっている。

県内で就職するにあたって、新入社員は自分との適性を重視しているものの、決して自分本位ではなく、青森県に貢献したいという意欲が強まっているのは頼もしい限りである。

今回調査では女性の会社に対する向き合い方に意識の変化がみられる。女性は「結婚・出産を機に辞めたい」が減少し、一方で「定年まで働きたい」とする割合が増加している。これは 2 度にわたる雇用機会均等法の改正が背景とみられる。

1. 就職にあたって

- 会社選びのポイントは「仕事が自分に合っている」がトップ。「福利厚生面の充実度」は労働条件・環境への関心から伸びがみられる。
- 県内就職の理由は「生活が楽だから」がトップ。「地元のために自分の力を発揮したい」は全体に増加傾向。

2. 社会人として

- 就職後の不安は、「仕事についていけるか」、「職場の人間関係」の上位 2 項目が全体の 8 割。
- 社会人として大切なものは、「責任感」、「コミュニケーション能力」を重視。
- 身につけたい知識・技術は「語学力」、「専門的知識」、「情報処理に関する知識・技術」を重要視。
- 昇給・昇格の基準は、「能力・業績と年功序列の両方が取り入れられた型」がトップ。
- 「会社・仕事」と「家庭・生活」では「家庭・生活重視型」が 8 割。
- 幅広い業務をこなす「ゼネラリスト」志向と、専門分野に秀でた「スペシャリスト」志向の割合はほぼ同じ。

3. 上司について

- 男性上司に求めるのは「信頼感」、「指導力」などリーダーシップ、女性上司には「優しさ」、「明るさ」、「信頼感」などメンタルな面での支え。
- 理想の上司を有名人にたとえると、男性上司では「松岡修造」が 2 回連続、女性上司では「天海祐希」が 5 回連続でトップ。

4. 自分の将来について

- 会社の定着度については「とりあえず今の会社で働く」がトップ。また、女性の会社への向き合い方に意識の変化がみられる。
- 出世については「役職にはこだわらない」が 6 割以上で、出世意欲については全体に希薄な状況。
- 将来結婚した場合の共働きについては抵抗がないとする割合が 9 割。

5. 自分自身のことについて

- 初月給の使いみちは、家族への感謝から「家族へのプレゼント」がトップ、「預金をする」は減少し、貯蓄への堅実な姿勢がやや後退。
- 普段、利用する情報源は「スマートフォン・携帯電話」が 95%。
- 自分を PR する言葉は、「明るい」がトップ、次いで「まじめ」、「楽観的」などの順。

1. 就職にあたって

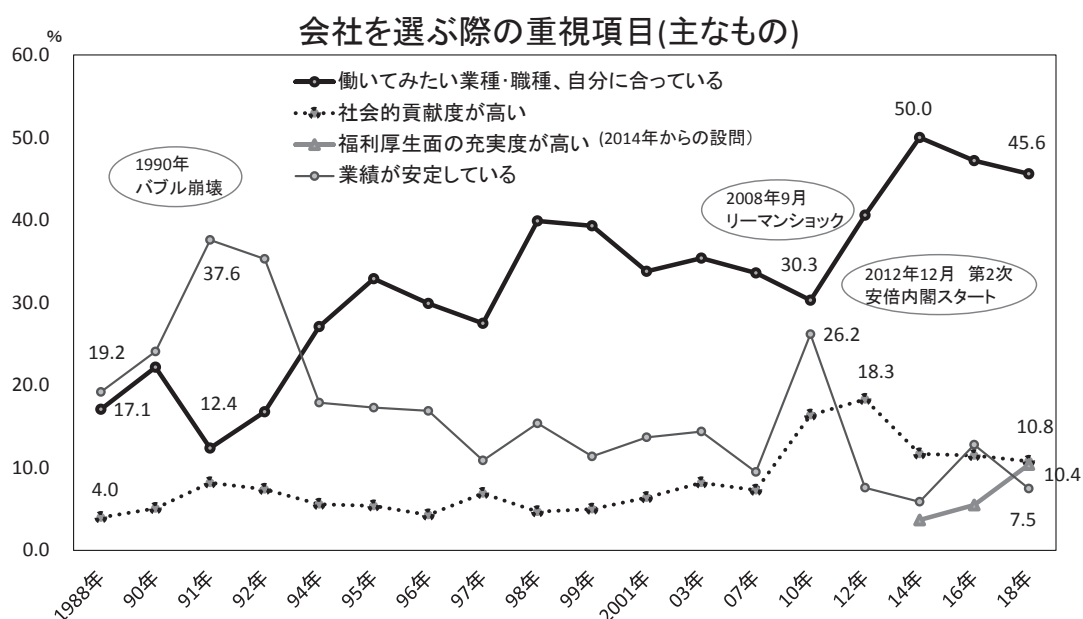
(1) 会社を選ぶ際の重視項目

- ・適性を重視、「働いてみたい業種・職種である」がトップ
- ・労働条件・環境などに関心、「福利厚生面の充実度が高い」の伸びが目立つ

今年の新入社員が、就職する会社を選ぶにあたって重視した項目は、トップが「働いてみたい業種・職種である」となり、次いで「社会的貢献度が高い」、「福利厚生面の充実度が高い」などとなった。

主な項目の推移をみると、適性を重視する傾向はバブル崩壊後からみられ、リーマンショック以降はさらにその傾向が強まっている。また、今回調査では「福利厚生面」の伸びが目立っており、職場の労働条件・環境に関心が高まっている。一方、会社の業績については、バブル崩壊後に大きく後退し、現在に至っている。

会社選びの方向性は、バブル崩壊が大きな転換期となり、「会社の業績」から「適性」へ切り替わっている。個人の個性を重視する時代となり、この傾向は今後も続くものとみられる。



2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
働いてみたい業種・職種である	① 41.0	① 52.6	① 45.4	① 55.3	① 40.7	① 45.6
社会的貢献度が高い	② 15.3	4.1	② 13.0	2.1	② 12.8	② 10.8
福利厚生面の充実度が高い	6.9	② 15.5	③ 10.2	② 8.5	③ 11.6	③ 10.4
業績が安定している	9.0	5.2	8.3	2.1	9.3	7.5
通勤に便利である	6.3	③ 8.2	8.3	② 8.5	4.7	7.1
会社に将来性がある	③ 10.4	1.0	7.4	4.3	7.0	6.6
給料が高い	3.5	5.2	2.8	③ 6.4	4.7	4.1
有名で会社の規模も大きい	4.9	0.0	3.7	4.3	1.2	2.9
その他	2.8	8.2	0.9	8.5	8.1	5.0

(2) 県内就職の理由

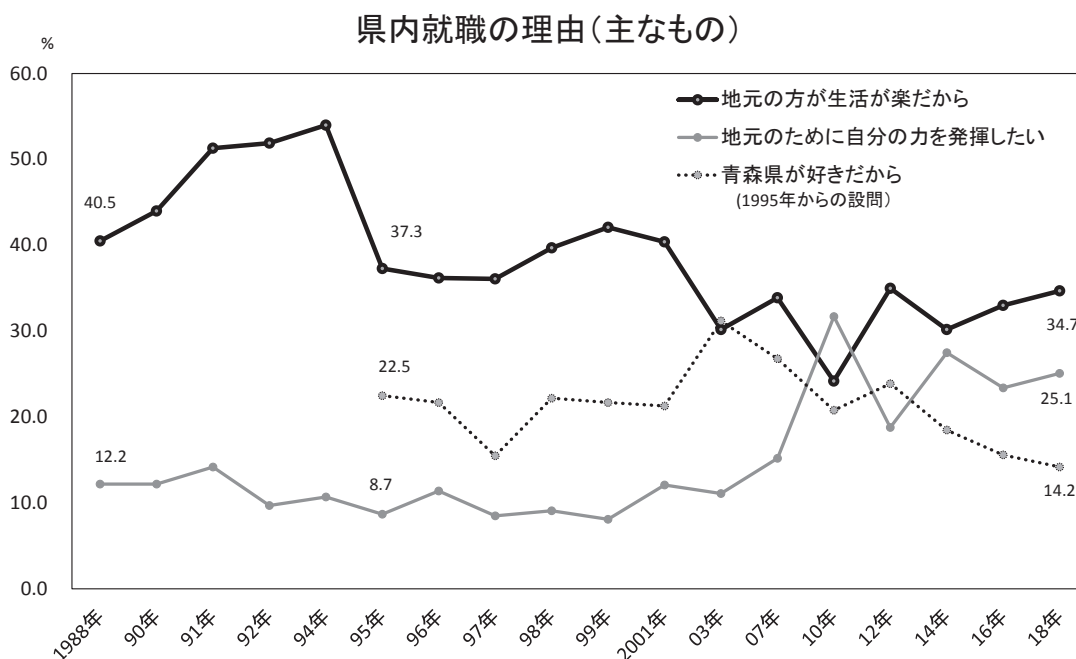
・「生活が楽だから」がトップ、「地元のために」は全体に増加傾向

県内就職をした理由は、「地元の方が生活が楽だから」がトップとなり、余裕のある生活を重視する状況がみられた。次いで「地元のために自分の力を発揮したい」、「青森県が好きだから」などとなった。

主な項目の推移をみると、「生活が楽だから」の割合は 2014 年以降増加している。「地元のために」は 2003 年以降、全体に増加傾向にあり、新入社員の青森県に貢献したいという意欲が高まっていることがうかがわれる。

男女別にみると、男性は「地元のために」がトップとなり、「生活が楽だから」を上回った。

学卒別にみると、高校・高専卒は「地元の生活が楽」の割合が他に比べ高かった。大学・大学院卒は「地元のために」、「青森県が好きだから」の割合が他に比べて高かった。県外での生活を経た上で青森県の魅力を再認識したものと考えられる。



2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
地元の方が生活が楽だから	② 27.5	① 45.4	① 45.8	① 36.2	② 20.0	① 34.7
地元のために自分の力を発揮したい	① 30.3	② 17.5	② 24.3	② 17.0	① 30.6	② 25.1
青森県が好きだから	③ 15.5	③ 12.4	③ 9.3	③ 14.9	② 20.0	③ 14.2
希望の業種・職種が青森県だった	9.9	7.2	5.6	② 17.0	8.2	8.8
家の事情でやむを得ず	6.3	10.3	6.5	8.5	③ 9.4	7.9
ただ何となく	9.9	3.1	7.5	4.3	8.2	7.1
その他	0.7	4.1	0.9	2.1	3.5	2.1

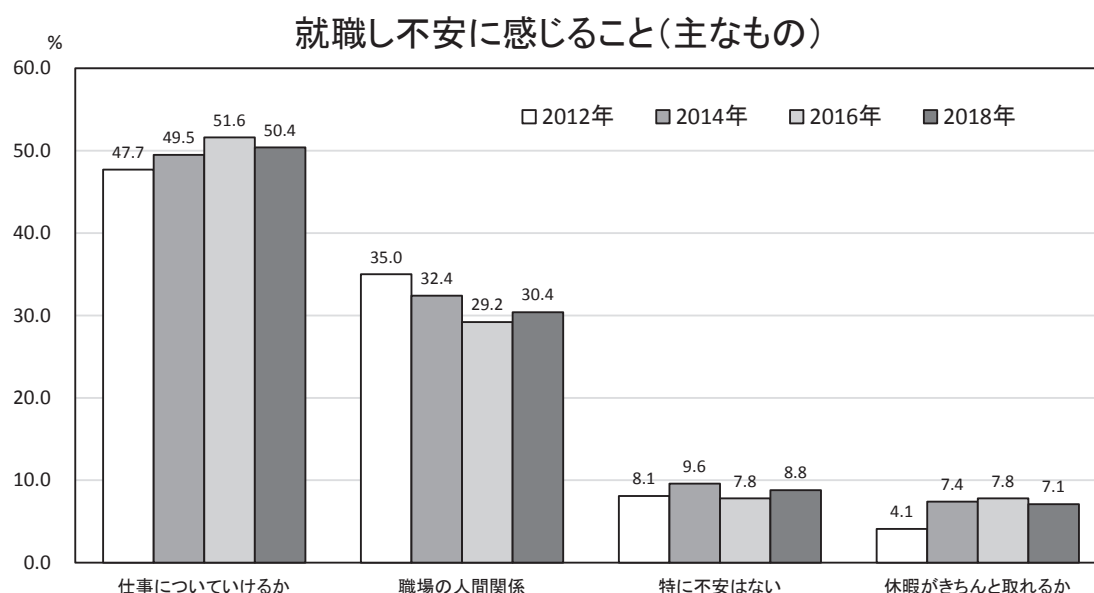
2. 社会人として

(1) 就職し、不安に感じること

・仕事の内容、対人関係への不安が 8 割

社会人としてスタートを切った新入社員が抱えている不安は、「仕事についていけるか」がトップ、「職場の人間関係」が 2 位となった。2012 年の調査以降、この 2 項目が全体の 8 割を占めており、新入社員にとって仕事の内容、対人関係に関する不安が大きいことがうかがわれる。

学卒別にみると、大学・大学院卒は「休暇がきちんと取れるか」の割合が他に比べて高く、プライベートな時間を重視する傾向がみられた。



2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
仕事についていけるか	① 49.3	① 52.1	① 50.9	① 51.1	① 49.4	① 50.4
職場の人間関係	② 28.5	② 33.3	② 30.6	② 36.2	② 27.1	② 30.4
特に不安はない	③ 9.7	③ 7.3	③ 11.1	③ 8.5	5.9	③ 8.8
休暇がきちんと取れるか	8.3	5.2	6.5	0.0	③ 11.8	7.1
希望する仕事が任されるか	3.5	1.0	0.0	4.3	4.7	2.5
その他	0.7	1.0	0.9	0.0	1.2	0.8

(2) 社会人として大切なもの

・「責任感」、「コミュニケーション能力」を重視

社会人として大切だと思うこと(2項目まで選択)は、「責任感」がトップとなった。次いで「コミュニケーション能力」、「応用力・適応力」、「協調性」などと続いた。「責任感」は1981年以降、毎回トップに挙げられており、別項の自由意見にも「責任」という言葉が多数みられる。また、「コミュニケーション能力」は選択項目となった2014年以降2位をキープしており、対人関係、折衝能力などを重視している状況がみられた。

男女別でみると、女性は「責任感」の割合が男性に比べ高かった。一方、男性は「コミュニケーション能力」が女性に比べ高かった。

学卒別にみると、順位、割合でばらつきがみられた。高校・高専卒は「責任感」、「応用力・適応力」が他に比べ高い割合となった。専門学校・短大卒は「責任感」、大学・大学院卒は「コミュニケーション能力」がトップとなった。

社会人として大切なもの(2つまで選択)

(単位: %)

2012年		2014年		2016年		2018年	
責任感	52.3	責任感	47.1	責任感	41.8	責任感	50.4
協調性	38.6	コミュニケーション能力	41.3	コミュニケーション能力	41.4	コミュニケーション能力	43.3
応用力	28.9	協調性	24.3	協調性	30.0	応用力・適応力	28.8
辛抱強さ	23.4	応用力・適応力	24.3	応用力・適応力	25.9	協調性	26.3
自己啓発	21.8	自己啓発・向上意欲	15.9	辛抱強さ	16.8	健康	12.9
健康	11.2	辛抱強さ	15.3	自己啓発・向上意欲	14.5	辛抱強さ	12.1
自発性	7.6	健康	10.1	健康	9.1	自己啓発・向上意欲	10.0
その他	0.0	自発性	6.3	自発性	5.5	自発性	7.5
		その他	0.0	その他	0.9	その他	0.4

2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
責任感	② 44.4	① 59.4	① 60.2	① 44.7	② 41.2	① 50.4
コミュニケーション能力	① 46.5	② 38.5	② 40.7	② 42.6	① 47.1	② 43.3
応用力・適応力	27.1	③ 31.3	③ 36.1	23.4	22.4	③ 28.8
協調性	③ 27.8	24.0	22.2	③ 29.8	③ 29.4	26.3
健康	14.6	10.4	10.2	14.9	15.3	12.9
辛抱強さ	11.8	12.5	8.3	17.0	14.1	12.1
自己啓発・向上意欲	8.3	12.5	8.3	14.9	9.4	10.0
自発性	9.0	5.2	5.6	8.5	9.4	7.5
その他	0.0	1.0	0.0	2.1	0.0	0.4

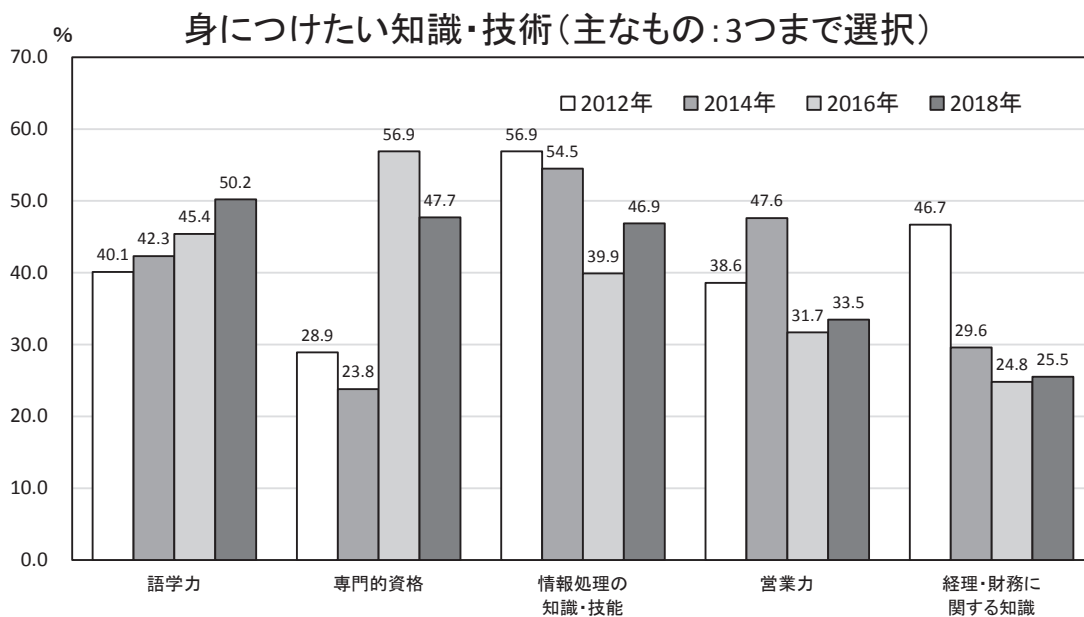
(3) 仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術

・「語学力」がトップ、「専門的資格」、「情報処理に関する知識・技能」など

新入社員が仕事をするにあたり、身につけたいと考えている知識・技術(3項目まで選択)は「語学力」がトップとなり、「専門的資格」、「情報処理に関する知識・技能」、「営業力」などと続いた。「語学力」の割合は増加傾向にあり、青森県においても外国人を見かける機会が増加していることなど要因とみられる。また、「専門的資格」、「情報処理」といった専門性を求める項目も高い割合となった。

男女別にみると、男性は「高度な工学系知識・技術」の割合が女性に比べ高く、女性は「語学力」が男性に比べ高かった。

学卒別にみると、順位、割合でばらつきがみられた。高校・高専卒は「語学力」、専門学校・短大卒は「専門的資格」、大学・大学院卒は「情報処理」がトップとなった。



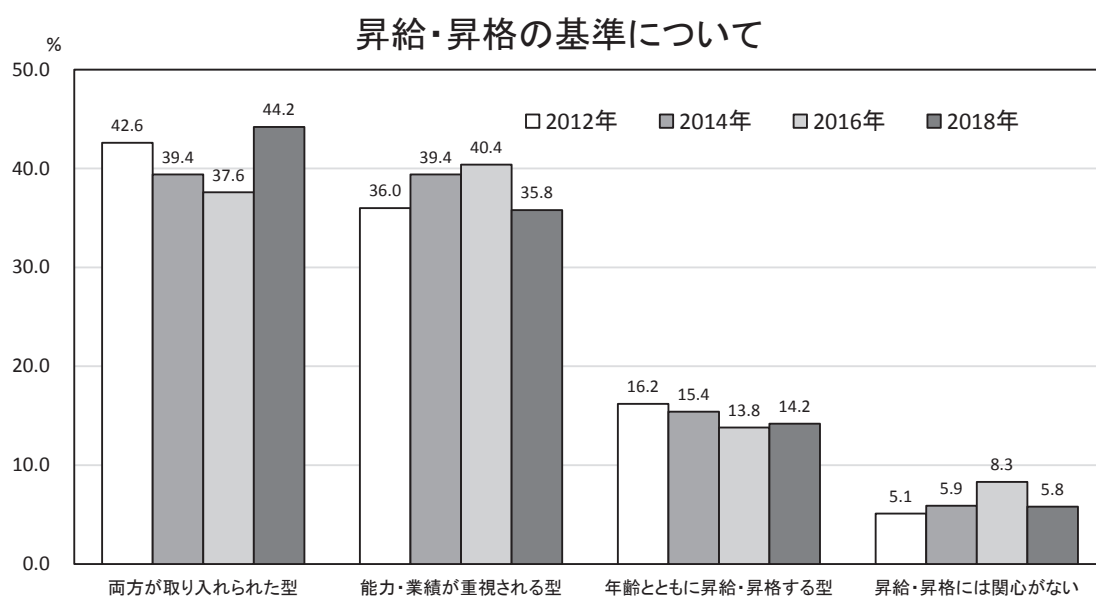
2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
語学力	③ 43.4	① 60.4	① 61.1	② 51.1	35.7	① 50.2
専門的資格	① 49.7	② 44.8	② 45.4	① 63.8	② 41.7	② 47.7
情報処理の知識・技能	② 46.2	③ 47.9	③ 43.5	③ 44.7	① 52.4	③ 46.9
営業力	31.5	36.5	38.0	17.0	③ 36.9	33.5
経理・財務に関する知識	23.1	29.2	26.9	19.1	27.4	25.5
高度な工学系知識・技術	32.2	8.3	25.0	21.3	20.2	22.6
法律に関する知識	16.1	9.4	5.6	12.8	23.8	13.4
特にない	2.1	2.1	2.8	2.1	1.2	2.1
その他	2.8	5.2	1.9	6.4	4.8	3.8

(4)昇給・昇格の基準について

- ・「能力・業績と年功序列の両方が取り入れられた型」がトップ

新入社員が望んでいる昇給・昇格の基準は、「能力・業績と年功序列の両方が取り入れられた型」がトップ、次いで「能力・業績が重視される型」となった。「両方が取り入れられた型」は減少傾向、「能力・業績が重視される型」は増加傾向であったが、今回調査ではそれぞれ逆転した結果となった。

学卒別にみると専門学校・短大卒は「能力・業績が重視される型」がトップとなった。



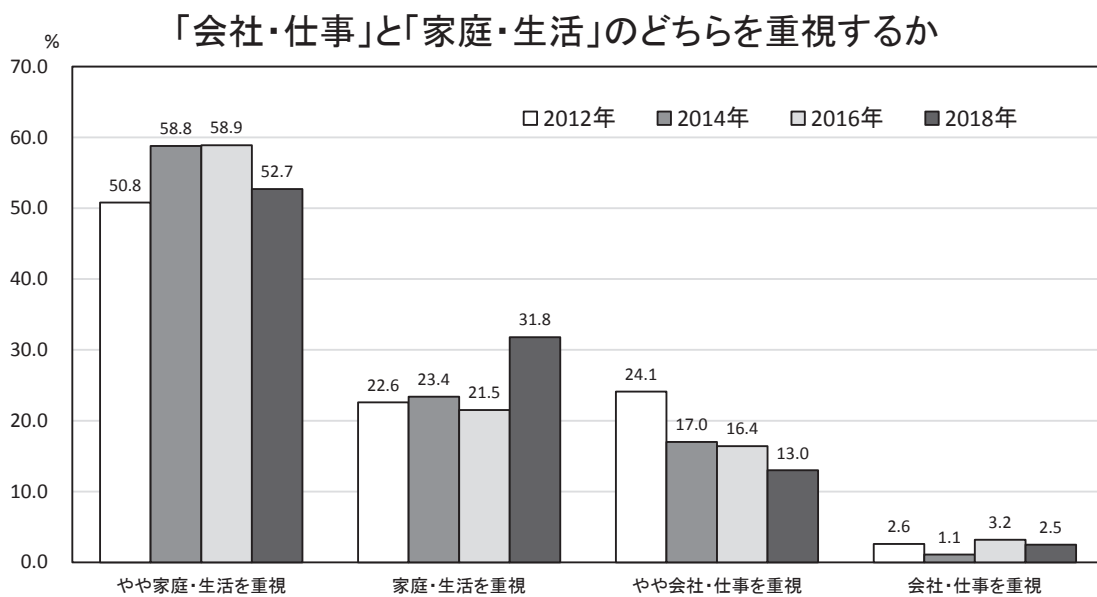
2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
両方が取り入れられた型	① 43.8	① 44.8	① 43.5	② 36.2	① 49.4	① 44.2
能力・業績が重視される型	② 38.2	② 32.3	② 34.3	① 44.7	② 32.9	② 35.8
年齢とともに昇給・昇格する型	13.2	15.6	16.7	10.6	12.9	14.2
昇給・昇格には関心がない	4.9	7.3	5.6	8.5	4.7	5.8

(5)「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか

・「家庭・生活を重視」の割合が増加、「家庭・生活重視型」が8割を占める

目指す社員像は、「やや家庭・生活を重視」がトップ、次いで「家庭・生活を重視」となった。「家庭・生活重視型」の割合は全体の8割を占め、前回調査に比べ割合が増加した。

男女別、学卒別では全体と大きな違いはみられなかった。



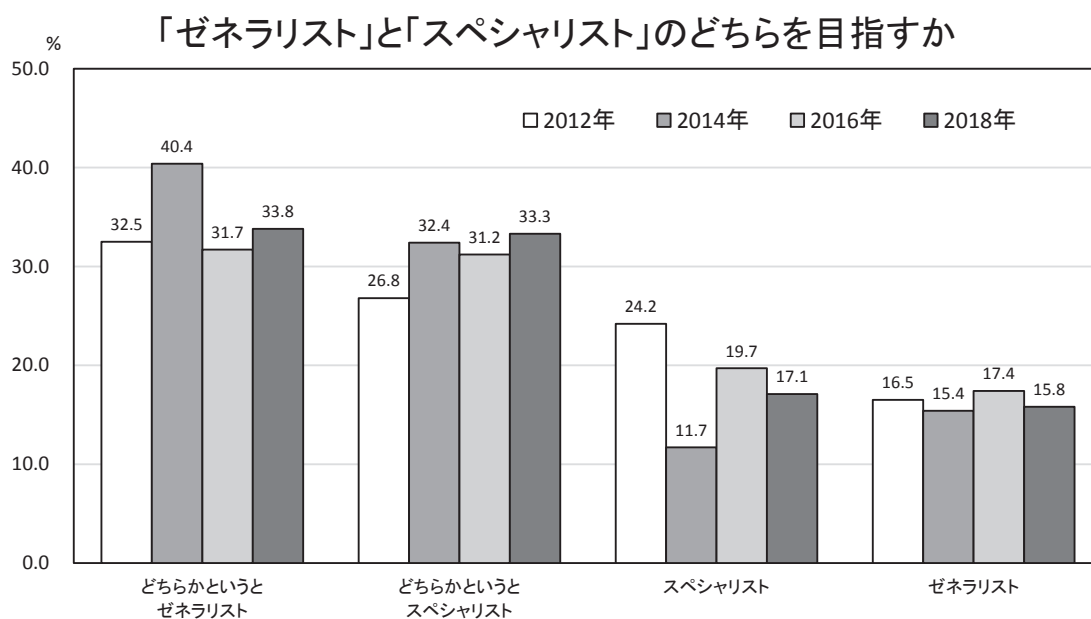
2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
やや家庭・生活を重視	① 53.5	① 51.6	① 50.9	① 55.3	① 53.6	① 52.7
家庭・生活を重視	② 29.2	② 35.8	② 34.3	② 29.8	② 29.8	② 31.8
やや会社・仕事を重視	15.3	9.5	13.0	12.8	13.1	13.0
会社・仕事を重視	2.1	3.2	1.9	2.1	3.6	2.5

(6)「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを目指すか

- ・「ゼネラリスト」、「スペシャリスト」はほぼ同じ割合
- ・学卒別ではばらつき、高校・高専卒は「ゼネラリスト」、専門学校・短大卒は「スペシャリスト」

将来、職場で目指すのは、幅広い業務をこなす「ゼネラリスト」か、あるいは専門分野に秀でた「スペシャリスト」か尋ねたところ、「どちらかというゼネラリスト」がトップとなり、次いで僅差で「どちらかというスペシャリスト」となった。ゼネラリスト、スペシャリストの志向別にみると、前回調査と同様に、ほぼ同じ割合となった。

学卒別にみると、ばらつきがみられた。高校・高専卒はゼネラリスト志向が 6 割以上となった。専門学校・短大卒はスペシャリスト志向が 7 割以上となった。



2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
どちらかというゼネラリスト	① 35.4	② 31.3	① 43.5	19.1	② 29.4	① 33.8
どちらかというスペシャリスト	② 32.6	① 34.4	② 26.9	① 42.6	① 36.5	② 33.3
スペシャリスト	16.0	18.8	10.2	② 29.8	18.8	17.1
ゼネラリスト	16.0	15.6	19.4	8.5	15.3	15.8

3. 上司について

(1) 上司に求めるもの

- ・男性上司には「信頼感」、「指導力」などリーダーシップ
- ・女性上司には「優しさ」、「信頼感」、「明るさ」などメンタルな面での支え

職場で最も身近に接することの多い上司に対して、新入社員が求めているものを尋ねてみた。それによると、男性上司に求めているものは「信頼感」がトップとなり、「指導力」、「優しさ」、「決断力」、「行動力」などの順となった。

一方、女性上司に求めているものは「優しさ」がトップとなり、「信頼感」、「明るさ」、「包容力」、「指導力」などの順となった。

男性上司に対してはこれまでの調査と同様、「信頼感」、「指導力」といったリーダーシップを求める項目が上位を占めた。また、「優しさ」が3位となり、いわゆる「男らしさ」以外の面も求められている。一方、女性上司に対してはメンタルな面での支えを求める項目が目立っており、この傾向は過去の調査においても同様の結果がみられる。

上司に求めるもの

(単位: %)

男性上司に求めるもの

2012年		2014年		2016年		2018年	
指導力	29.7	指導力	34.2	信頼感	40.0	信頼感	38.2
信頼感	28.1	信頼感	27.3	指導力	25.6	指導力	26.6
決断力	12.0	優しさ	10.7	決断力	10.2	優しさ	8.3
行動力	8.9	決断力	9.1	行動力	8.8	決断力	7.5
包容力	7.8	行動力	6.4	包容力	6.0	行動力	7.5
優しさ	7.3	包容力	5.3	優しさ	4.7	包容力	4.1
知性	2.6	明るさ	3.7	明るさ	1.9	明るさ	3.3
厳しさ	1.6	厳しさ	2.1	知性	1.9	知性	2.9
明るさ	1.6	知性	0.0	厳しさ	0.9	厳しさ	1.7
その他	0.5	その他	1.1	その他	0.0	その他	0.0

女性上司に求めるもの

2012年		2014年		2016年		2018年	
優しさ	33.0	優しさ	24.6	優しさ	29.0	優しさ	32.8
信頼感	23.6	信頼感	24.1	信頼感	18.0	信頼感	21.2
指導力	15.7	包容力	18.2	明るさ	17.5	明るさ	14.1
明るさ	11.0	明るさ	16.0	指導力	12.9	包容力	13.7
包容力	8.4	指導力	9.6	包容力	11.1	指導力	8.7
知性	4.7	知性	2.7	知性	5.1	知性	5.4
決断力	1.6	決断力	1.6	決断力	2.8	決断力	2.1
行動力	1.6	行動力	1.6	行動力	1.8	行動力	1.2
厳しさ	0.5	厳しさ	0.5	厳しさ	0.9	厳しさ	0.8
その他	0.0	その他	1.1	その他	0.9	その他	0.0

(2)理想の上司を有名人にたとえると

- ・男性上司では“熱血”「松岡修造」が2回連続、女性では「天海祐希」が5回連続でトップ

新入社員が考える理想の上司を有名人にたとえると、男性上司では元テニスプレーヤーで、現在はスポーツキャスターやCMなどで活躍する「熱血」キャラクターの「松岡修造」がトップとなった。次いでマルチタレントの「所ジョージ」が2位、「明石家さんま」が3位、「ビートたけし」が4位となった。松岡修造は前回調査に引き続きトップとなった。2～4位も過去の調査で「常連」のメンバーが占めた。

一方、女性上司ではドラマやCMで上司役を演じる女優の「天海祐希」がトップとなった。次いで、「水ト麻美」が2位、「石原さとみ」が3位、「上戸彩」が4位となった。天海祐希は本調査において2010年以来5回連続でトップの座を占めている。

ランクインした顔ぶれをみると、ドラマや映画の中での配役や、バラエティ番組での親しみやすさなどに惹かれるものがあるのであろう。メディアの影響が大きいことがうかがわれる。

理想の上司を有名人にたとえると

男性上司には

	2012年	2014年	2016年	2018年
1位	所 ジョージ 阿部 寛	タモリ	松岡 修造	松岡 修造
2位	向井 理	小栗 旬 堺 雅人	所 ジョージ	所 ジョージ
3位	桜井 翔 関根 勤	所 ジョージ 水谷 豊	有吉 弘行	明石家さんま
4位	イチロー 福山 雅治	イチロー ビートたけし 竹之内 豊 福山 雅治	明石家さんま	ビートたけし

女性上司には

	2012年	2014年	2016年	2018年
1位	天海 祐希	天海 祐希	天海 祐希	天海 祐希
2位	真矢 ミキ	和田 アキ子 江角 マキコ	篠原 涼子 吉田 羊 ローラ	水ト 麻美
3位	篠原 涼子	篠原 涼子 北川 景子 石原 さとみ	水ト 麻美 和田 アキ子	石原 さとみ
4位	仲間 由紀恵 江角 マキコ	真矢 ミキ	仲間 由紀恵	上戸 彩

4. 自分の将来について

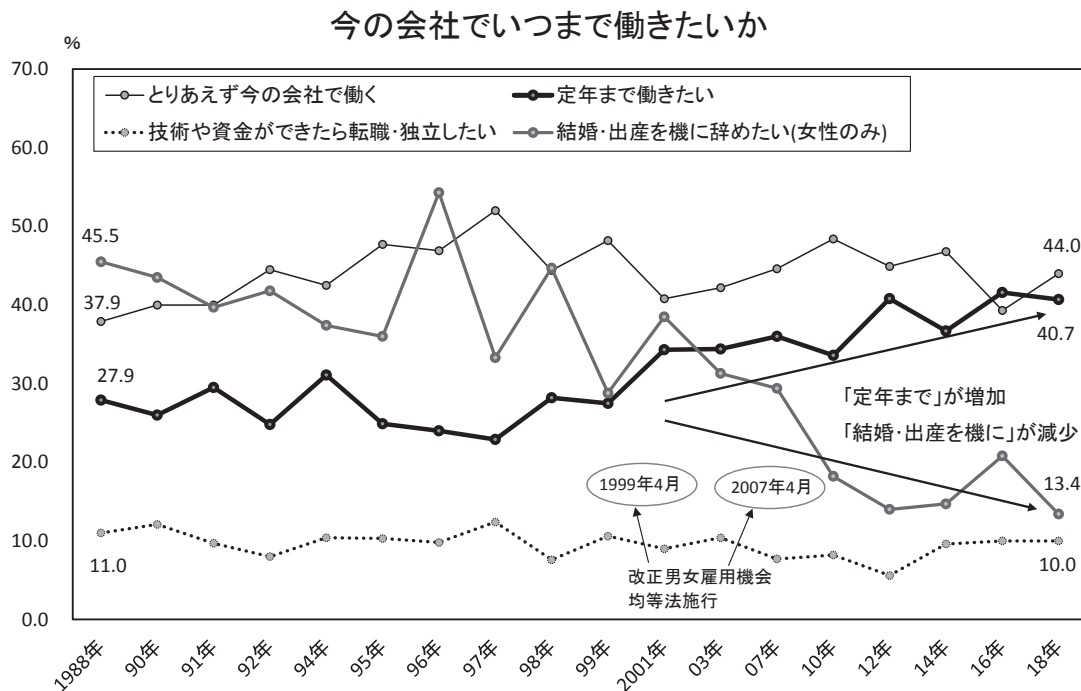
(1) 今の会社でいつまで働きたいか

- ・トップは「とりあえず今の会社で働く」
- ・女性の会社への向き合い方に意識の変化

今の会社への定着度については、「とりあえず今の会社で働く」がトップ、次いで僅差で「定年まで働きたい」となり、「技術や資金ができれば転職・独立したい」などとなった。

項目別の推移をみると、女性の会社への向き合い方に意識の変化がみられ、女性の社会進出が新入社員にも浸透している状況がうかがわれる。

2001年以降「結婚・出産を機に」が減少している。一方、同時期から「定年まで」の割合が増加している。うち女性の割合をみると、1990年代は10%前後で推移していたが1999年以降は大幅な伸びがみられ今回調査では24.7%となった。これは2度にわたる男女雇用機会均等法の改正(1999年、2007年施行)が大きく影響しており、女性が働きやすい職場環境へ改善していることが背景とみられる。



2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
とりあえず今の会社で働く	① 37.5	① 53.6	① 42.6	① 44.7	① 45.3	① 44.0
定年まで働きたい	② 51.4	24.7	② 45.4	36.2	② 37.2	② 40.7
技術や資金ができれば転職・独立したい	11.1	② 8.2	③ 9.3	② 8.5	③ 11.6	③ 10.0
結婚したら辞めたい	0.0	9.3	2.8	8.5	2.3	3.7
子どもができれば辞めたい	0.0	③ 4.1	0.0	② 2.1	3.5	1.7
参考: 結婚・出産を機に辞めたい(女性のみ)		13.4	6.5	25.0	16.1	13.4

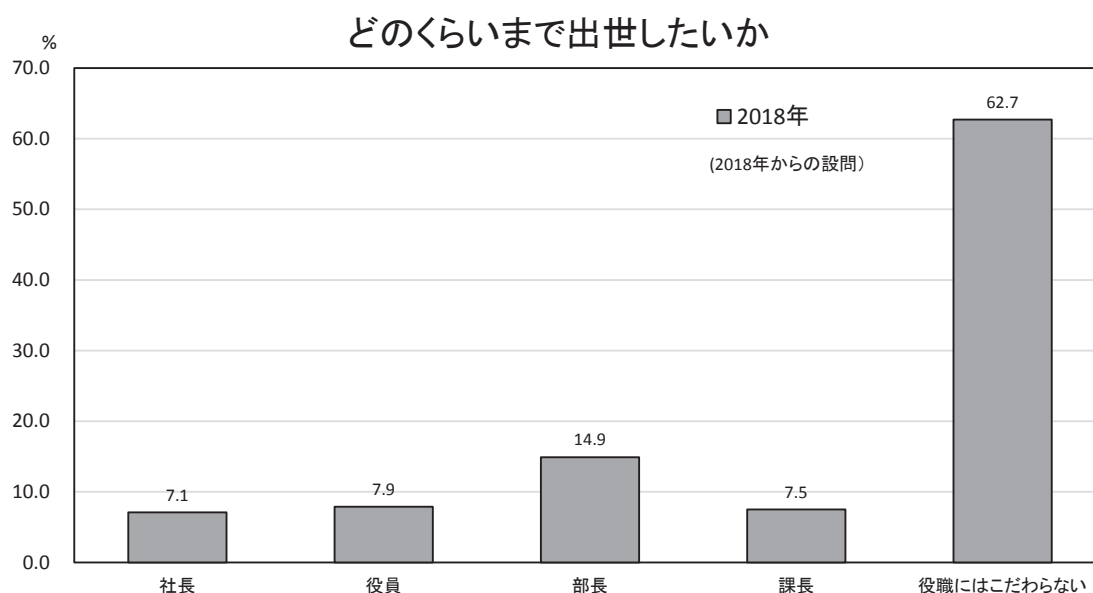
(2)どのくらいまで出世したいか

・「役職にはこだわらない」が6割以上、出世意欲は全体に希薄

将来どのくらいの役職まで出世したいかについては、「役職にはこだわらない」がトップとなり6割以上を占めた。次いで「部長」、「役員」、「社長」、「課長」の順となった。トップに上り詰めるというより、それなりの役職で十分との考え方がみられ、出世意欲については全体に希薄な状況がうかがわれた。

男女別にみると、女性は「役職にはこだわらない」割合が8割を超え、男性の約5割を大きく上回った。

学卒別にみると、全体とほぼ同様の結果となった。大学・大学院卒は「社長」の割合が他に比べ高かった。



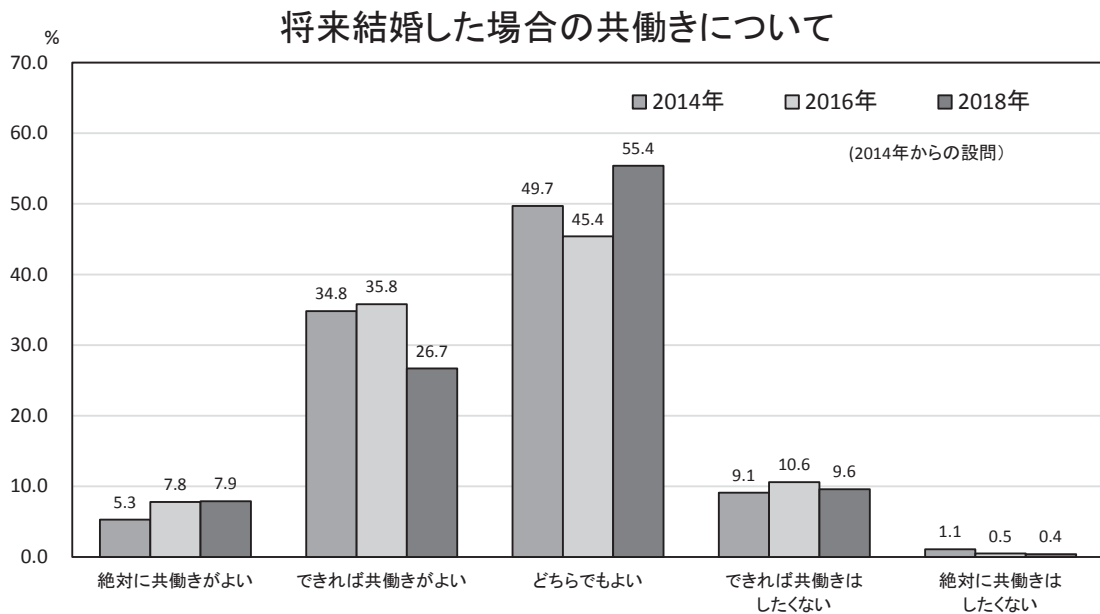
2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
社長	9.7	3.1	5.6	6.4	③ 9.3	7.1
役員	8.3	② 7.2	③ 9.3	2.1	③ 9.3	③ 7.9
部長	② 22.2	③ 4.1	② 17.6	② 12.8	② 12.8	② 14.9
課長	③ 10.4	3.1	6.5	③ 8.5	8.1	7.5
役職にはこだわらない	① 49.3	① 82.5	① 61.1	① 70.2	① 60.5	① 62.7

(3) 将来結婚した場合の共働きについて

・共働きへの抵抗感がないとする割合は 9 割

将来結婚した場合、共働きをすることについての考えを尋ねたところ、共働きへの抵抗はないとする「絶対に共働きがよい」、「できれば共働きがよい」、「どちらでもよい」の合計割合は前回同様、全体の 9 割を占めた。一方、「できれば共働きはしたくない」、「絶対に共働きはしたくない」の合計は 1 割にとどまった。

男女別にみると、女性は「絶対に共働きがよい」の割合が男性に比べ高く、男性は「どちらでもよい」が女性を上回った。女性は男性に比べ共働きに対し積極的な姿勢がうかがわれる。



2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
絶対に共働きがよい	4.2	③ 13.4	10.2	4.3	7.1	7.9
できれば共働きがよい	② 26.6	② 26.8	② 23.1	② 25.5	② 31.8	② 26.7
どちらでもよい	① 59.4	① 49.5	① 53.7	① 63.8	① 52.9	① 55.4
できれば共働きはしたくない	③ 9.8	9.3	③ 12.0	③ 6.4	③ 8.2	③ 9.6
絶対に共働きはしたくない	0.0	1.0	0.9	0.0	0.0	0.4

5. 自分自身のことについて

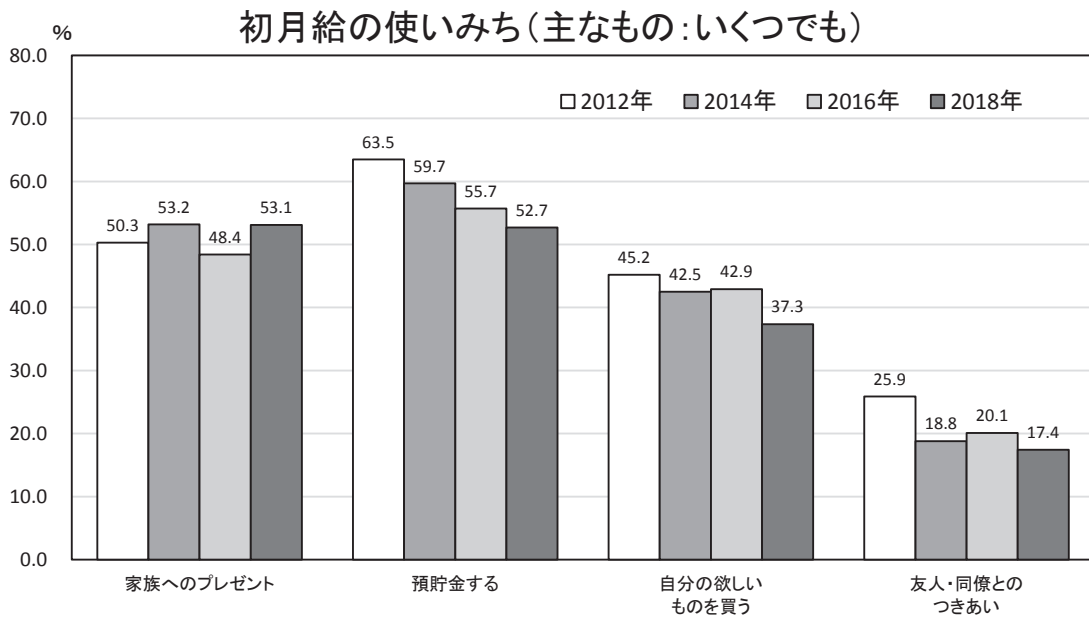
(1) 初月給の使いみち

- ・「家族へのプレゼント」がトップ
- ・「預貯金する」は減少傾向、堅実姿勢がやや後退

初月給をもらったなら何に使うかを尋ねたところ、「家族へのプレゼント」がトップとなり、世話になった家族への感謝の気持ちがみられた。2位の「預貯金する」は減少傾向がみられ、堅実姿勢がやや後退している。

男女別では上位2項目で順位が入れ替わったものの、トップと2位は僅差であった。男性は「友人・同僚とのつきあい」が女性に比べ高かった。

学卒別にみると、幾分ばらつきがみられた。専門学校・短大卒は「預貯金する」、「自分の欲しいものを買う」の割合が他に比べ高かった。大学・大学院卒は「世話になった人へのプレゼント」が比較的高かった。



2018年	男性		女性		高校・高専卒		専門学校・短大卒		大学・大学院卒		合計	
家族へのプレゼント	②	50.0	①	38.9	①	53.7	③	40.4	①	59.3	①	53.1
預貯金する	①	50.7	②	37.5	②	46.3	①	55.3	①	59.3	②	52.7
自分の欲しいものを買う	③	34.0	③	28.5	③	38.0	②	46.8	②	31.4	③	37.3
友人・同僚とのつきあい		20.1		9.0		17.6		17.0		17.4		17.4
世話になった人へのプレゼント		12.5		11.1		12.0		8.5	③	19.8		14.1
恋人へのプレゼント		6.3		6.3		7.4		4.3		9.3		7.5
両親に全額渡す		4.9		2.1		8.3		2.1		0.0		4.1
その他		2.8		4.2		9.3		6.4		2.3		4.1

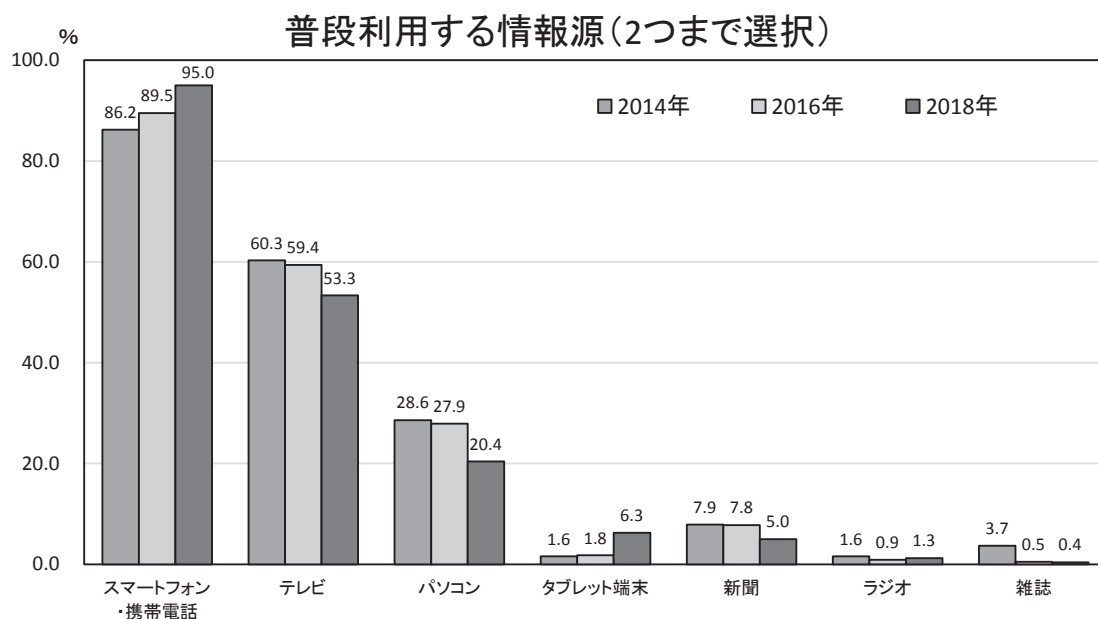
(2) 普段、情報源として何を利用するか

・主要な情報源として 95%が「スマートフォン・携帯電話」

現代の情報社会の中で、新入社員が情報源として利用しているツールは「スマートフォン・携帯電話」がトップとなった。次いで「テレビ」、「パソコン」、「タブレット端末」などと続いた。「スマートフォン・携帯電話」の割合は 95.0%と前回調査を上回り、若者にとって不可欠な情報源となっている。上位を電子機器が占める一方、活字メディアの新聞、雑誌は 1 割以下にとどまり、若者の活字メディア離れの状況がうかがわれる。

男女別にみると、男性は「パソコン」が女性に比べ高く、女性は「テレビ」が男性を上回った。

学卒別にみると、それぞれ大きな違いはみられなかったが、専門学校・短大卒は「タブレット端末」の割合が他に比べて高く、大学・大学院卒は「新聞」の割合が幾分高かった。



2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
スマートフォン・携帯電話	① 95.1	① 94.8	① 96.3	① 91.5	① 95.3	① 95.0
テレビ	② 46.2	② 63.9	② 57.0	② 57.4	② 46.5	② 53.3
パソコン	③ 26.6	③ 11.3	③ 19.6	③ 19.1	③ 22.1	③ 20.4
タブレット端末	5.6	7.2	4.7	12.8	4.7	6.3
新聞	6.3	3.1	2.8	4.3	8.1	5.0
ラジオ	0.7	2.1	0.0	0.0	3.5	1.3
雑誌	0.7	0.0	0.9	0.0	0.0	0.4
その他	0.7	0.0	0.0	2.1	0.0	0.4

(3) 自分をPRする言葉

・前回調査と同様、上位は「明るい」、「まじめ」、「楽観的」

新入社員が自分をPRする言葉は「明るい」がトップ、次いで「まじめ」、「楽観的」などの順となった。前回調査と比べると、上位4位までは同順位であり、「明るい」とする割合が幾分減少した。2012年からの推移をみると順位、割合は全体に大きな変化はなく、小幅な変動にとどまっている。

男女別でみると、女性は「まじめ」の割合が男性に比べ高かった。一方、男性は「誠実」、「適応力」が女性に比べ高かった。

学卒別でみると、順位、割合にややばらつきがみられた。高校・高専卒は「明るい」の割合が他に比べ高かった。専門学校・短大卒は「誠実」の割合が高かった。大学・大学院卒は「まじめ」がトップとなり、「忍耐力」、「協調性」の割合が高かった。

自分をPRする言葉

(単位: %)

2012年		2014年		2016年		2018年	
明るい	23.7	明るい	25.0	明るい	33.0	明るい	25.4
まじめ	18.0	まじめ	19.7	まじめ	17.4	まじめ	18.8
楽観的	15.5	忍耐力	13.3	楽観的	13.3	楽観的	15.0
努力家	12.9	楽観的	11.7	忍耐力	10.1	忍耐力	11.7
忍耐力	8.2	努力家	8.0	協調性	8.3	誠実	8.3
誠実	7.7	適応力	6.4	誠実	7.3	協調性	7.1
協調性	5.2	誠実	5.9	適応力	4.6	努力家	5.0
体力	5.2	体力	5.3	努力家	3.2	適応力	4.6
適応力	3.6	協調性	4.8	体力	2.8	体力	4.2

2018年	男性	女性	高校・高専卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
明るい	① 24.5	① 26.8	① 36.4	① 23.4	③ 12.8	① 25.4
まじめ	② 15.4	② 23.7	② 17.8	② 21.3	① 18.6	② 18.8
楽観的	③ 14.0	③ 16.5	③ 15.9	③ 12.8	② 15.1	③ 15.0
忍耐力	11.9	11.3	9.3	10.6	② 15.1	11.7
誠実	10.5	5.2	4.7	③ 12.8	10.5	8.3
協調性	7.0	7.2	5.6	2.1	11.6	7.1
努力家	4.2	6.2	4.7	2.1	7.0	5.0
適応力	7.7	0.0	2.8	4.3	7.0	4.6
体力	4.9	3.1	2.8	10.6	2.3	4.2

6. 社会人となり、改めて感じること

最後に、「社会人となり、改めて感じていること」を自由に述べていただいた。今回も社会人としての責任感に関する記述が多く、学生と社会人との環境の大きな違いに戸惑いながらも決意を新たにしている様子うかがわれた。

- 責任感の違いと自分で行動しなければいけないことを感じている。
(高校・高専卒、男性)
- 給料以上の仕事をしたい。
(高校・高専卒、女性)
- 希望していた職種につくことができ、うれしい反面、不安な気持ちがある。少しでも早く仕事を覚えて、立派な社会の一員として自立できるように頑張りたい。
(専門学校卒、男性)
- 常に自分自身の能力をどう高めていくのか考えるのが大切だと感じている。また社会や地域への貢献も積極的に行っていこうと思っている。
(専門学校卒、男性)
- 初めての土地でわからない事もたくさんあるが、上司・同僚との関係を築きつつ、ゆっくりでも確実に業務を覚えて、お客様の役に立てるようがんばりたい。
(大学・大学院卒、男性)
- 責任感が大事であることが仕事をしていて感じた。また、どんなことでも、自分の身は自分で守り、他人任せにしないことが社会で生きていくために必要であると改めて感じた。
(大学・大学院卒、女性)

人間関係、生活の変化に関しては、これまでの対等な仲間づきあいから組織の上下関係、あるいは自由な生活から仕事中心の生活への変化に戸惑っている様子うかがわれた。

- 協調性がなければ、上司の方たちとやっていけない気がした。
(高校・高専卒、男性)
- 基本のあいさつ、返事がとても大事だと実感した。
(高校・高専卒、女性)
- 自らにかかる責任の重さに耐えられるかとても不安。早く仕事を覚えたいとあせることが多い。
(専門学校卒、男性)
- 学生の時とは違うところが多く、常に周りの人々に気を配って生活しなければいけずに大変だと感じる。
(大学・大学院卒、男性)
- 社会人用のマナーやあいさつは身につけるのも慣れるのも大変。以前まではアルバイトの身分だったので、あまり会社や社会に貢献という意識はなかったが、意識改革が必要だなと思う。
(大学・大学院卒、女性)

一方、環境の変化に悩みながらも、新入社員らしい初々しきで社会人として踏み出していこうとする姿勢もみられた。

- 自身が思っていた姿と同じところもあれば、ギャップを感じることもある。自身が生きていくために働いているので、その仕事によって他者が幸せになれば最高だなと思った。(高校・高専卒、男性)
- 不安感もあったが、今は新しいことの積み重ねを楽しんでいる。このまま社会人生活がより良いものになっていければと思う。(高校・高専卒、女性)
- 日々研鑽に努め、責任感を持って行動しなければならないと感じている。緊張も不安も大きいですが、新しい環境にはやくなじみ、頑張りたいと思う。(短大卒、女性)
- 社会人となり、働く前に挨拶や礼儀作法が出来ていないと仕事が出来ないため、まずは徹底して挨拶を出来るようにしている。また、最後には出来なかった事を出来るようになるまで努力をし続けていこうと思う。(大学・大学院卒、男性)
- 自分が思っていたよりも仕事の量のはるかに多く、気構えが足りなかったと実感した。1年間やってみて、その時に自分がどんな形になっているかを考えながら、より知識や技術を高めていきたいと思う。(大学・大学院卒、男性)

そのほか、悩みや助けを求めているような、我々先輩社会人が考えさせられる意見もみられた。

- 仕事する緊張感と、仲間と協力し合える事が出来るか心配。仕事に対しては積極的に行動しないといけない。(高校・高専卒、男性)
- 新入社員とは、他の方々にすごくたくさん部分が見られているのだと感じた。服装と挨拶はすぐにでも改善しようと考えている。(高校・高専卒、男性)
- 早く大人になりたいと思っていたが、いざ社会人となると大変なことばかりできつい。(高校・高専卒、女性)
- 仕事が充実しないとプライベートも充実しないことを改めて実感しました。(専門学校卒、女性)
- 学生時代にもっと勉強すればよかったと改めて感じた。(短大卒・男性)
- 不安とやる気の境界にいます。(大学・大学院卒、男性)

以上

発行日 2018年7月5日

発行 株式会社青森銀行
青森市橋本一丁目9番30号
電話 017 (777) 1111

作成 一般財団法人青森地域社会研究所
青森市新町二丁目2番7号
電話 017 (777) 1511

印刷 北方商事株式会社
青森市港町二丁目6番6号
電話 017 (744) 1555
